

# 広報 たんごの風 2001 vol.10

「安心」を支える消防をめざして



## 特集 石油ストーブ実験

## 救急予防

泣かなくていいよ痛くないからね

火事・救急・救助

▼  
局番なしの119へ  
(携帯電話でも同じです)

8月26日(日)に大宮町の丹後織物工業組合中央加工場グラウンドで、京都府総合防災訓練が本番ながらに行われました。

日本赤十字社のテントで手当てを受けていたこのボクも、訓練の雰囲気について本気になってしまったんですね。  
ごくろうさんでした。

消 防 の 広 場

特 選



☆ 入選	
● 大宮第一小学校	藤本 文音さん
○ 長岡小学校	松本 真理子さん
○ 新山小学校	田村 奏恵さん
● 川上小学校	戸出 明平くん
○ 島津小学校	山副 未奈さん
○ 丹波第一小学校	吉岡 美裕さん
○ 大宮第二小学校	西田 瑞希さん
○ 野間小学校	佐藤 翔太くん
○ 川上小学校	佐藤 文哉くん

## 審査を終えて

審査委員長  
图画有識者 竹本 敏さん

特選作品は子供らしい発想で、訴えがよく伝わり、色使いもていねいで、きれいに仕上げてありました。

毎日の生活から得た題材やタイトルがいっぱいの作品を、来年も期待しています。

普通救命講習会

日 時	12月1日(土)	13時30分から17時まで
申し込み場所	峰山消防署講堂	
予定人数	先着30名	参加無料
問合せ先	峰山消防署救急係まで	
	11月28日(金)まで	
	62019	

この講習会は、応急救手について広く知りたい人に工呼吸や心臓マッサージなどを習得していただきたいものです。みんなさんの参加をお待ちしています。

## 特選者の紹介



普通救命講習会

## 秋の火災予防運動

11/9日～11/15日まで

空気が乾燥し火災があきやすい時季を迎えました。ちょっとした不注意で火災になってしまいます。冬を迎えれば今以上に火の取り扱いが多くなりますので、今一度火の用心に心掛けてください。

## 全国統一防火標語

『たしかめて。火を消してから 次のこと』

編集後記

早いもので秋も深まり暖房を実感します。器具の登場する冬が近づいてきました。広報紙を担当していると、季節の移り変わりの早さを感じます。■冬に備える特別企画として、ストーブのガリガリ脱糞油実験と、寒さに備える急病の増加に備える救急医療企画として、2つのテーマを取り組みました。■予防の思いがうまくみなさんに伝わる企画にならなかったらどうか……。

## 洗濯物干しの実験



乾かすつもりが火事の元に

写真のように鴨居に樹脂製のハンガーを掛け、木綿のワイシャツを干した状態でストーブに火をつけました。ストーブとワイシャツの間は70センチメートル。やがて上がてくる熱でワイシャツは揺れだし、15分後にはハンガーが熱で変形し、ワイシャツがストーブの上に落ちてしまいました。

15分後には

## 結果から

今回の実験結果は、ガソリンの量やストーブにどれだけ灯油が残っているかなどで多少の時間経過が変わってきます。注意していただきたいのは、気づかずに入れていたタバコのすいがらの不始末などの原因が6件、その他のケイズは2件以下という状況です。

ストーブに間違ってガソリンを入れないようにするには、灯油とガソリンをそれぞれ専用の容器で、別々の場所に保管し、容器に入っているものを明記しておくのも対策のひとつです。なお、ガソリンは基準に合った金属製容器に入れ保管することをすめています。灯油は無色透明ですが、ガソリンは赤っぽい色が着けてあります。タンクに給油する際に使

暖房器具一斉点検を



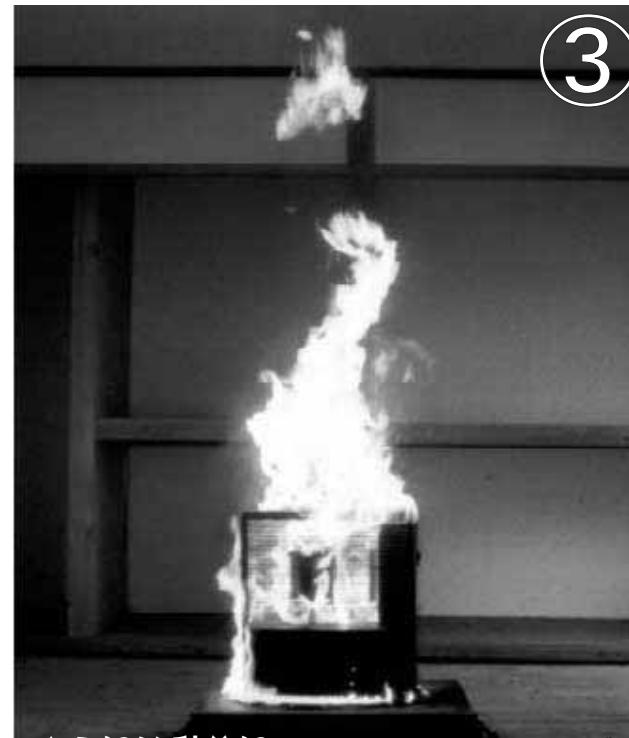
ハイ！消火

の

われる手動ポンプの先が白い液体の色を見分けるためのものです。これから冬を迎えるにあたり、暖房器具を出される際には、一度掃除してホコリなどを取つてからお使いください。また、年末の大掃除には日頃手の届かない冷蔵庫の裏にあるようなコンセントなども掃除し、安全に火事の無い冬をお過ごしください。

## 検証

## ストーブにガソリンを入れると



さらに14秒後に

アッという間に燃え上がってしまいました

## △カニスム

ガソリンを間違えて給油した場合、しばらくは灯油とあまり変わらない燃え方します。しかし、少しずつ青白い炎となり、だんだんとカートリッジタンクが熱により暖められ、灯油より比重の軽く膨張率も高いガソリンは、タンク内の圧力を上げていきます。やがて通常より多く燃料が押し出されはじめ、受け皿に必要以上溜まり、ストーブの芯で燃えていた炎が溜まったガソリンに引火、爆発的な燃焼となります。



実験スタート

見た目には正常に燃えています



65分経過

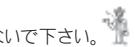
上にはかげろう、下からは火が

## 秋の火災予防企画

ストーブは部屋を暖めてくれる一般的な暖房器具ですが、少しの不注意で大きな火災になってしまふのであります。今回はこれから季節、多くの家庭で使われる石油ストーブを取り上げ、実験をしてみました。

## 実験には

実験には、一般的な家庭でよく見られるカートリッジ式石油ストーブ反射式一部対流型に、ガソリンを約2リットルタンクの半分くらい入れ、点火してみました。



## ボンゴ

という音とともにまたたく間にストーブは炎に包まれてしまいました。

炎の高さは1.7メートル以上になり天井に届く勢いです。

※あくまで実験ですので絶対にまねをしないで下さい。

(六) 石油ストーブ火災  
一向に減らない

丹後6町で過去5年間に発生した火事のうち住宅火災は、33件です。うちストーブとコンロによる火災が8件で最も多く、統計を間違つて給油してしまった場合、放つておけば必ずストーブは火だるまになってしまいます。

## 予防医療あれこれ

## 冬に向かって



弥栄町国民健康保険病院

院長 小屋 光雄

酷暑の夏も終わり、長雨の秋、そしてもう目の前に冬が迫っています。雪が少なくなったとはいえここは丹後。降らない冬はありません。

寒風の中、救急車のサイレンが響くのを聞いたことがあるでしょう？あなたがその救急車の主人公にならないように、ちょっとした知恵を…

冬が旬の病気といえば、まずは肺炎。ちょっとした風邪、と軽く見て大事に至ることもあります。咳、熱などがあれば早めに医師に診せておくこと。十分な食事と睡眠を取らなければすぐぶり返しますよ。念のために。

心筋梗塞なんかも冬に多い。寒さで血管が縮みあって詰まりかけの血管に血が通わなくなるんです。特に最近は、暖房で家中は暖かく、外は相変わらず寒いので、その温度差が引き金になります。家の中では脱衣場などが要注意ですね。その上にタバコを吸ったり、コレステロールが高かったり、糖尿病だったりするあなた、要注意。胸が痛くなったり、押さえられる感じがしたらすぐに病院へ。

脳梗塞も多いですね。手足が動きにくかったり、呂律が回りにくいことがあれば注意しましょう。

どんな病気でも早めに発見、早めに受診。救急車は最後の手段です。昼間の平日ならすぐにできる検査・治療でも、夜ではスタッフを呼び出して機器のウォームアップをして…、と大変時間がかかります。

でも「イザ！」となれば、救急車は強い味方。躊躇せずに呼びましょう。



スポーツで汗を流すことも大切です

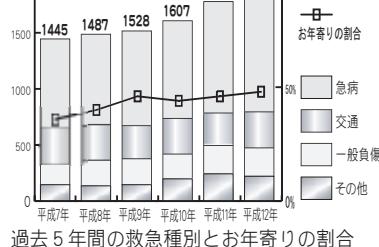
## 心掛けよう救急予防

ここ数年、全国的にも救急件数は増える傾向にあり、丹後6町でも5年前の1445件から比べると、昨年は371件も増えています。

火事で使えるならば火が出ても早いうちに消火器などで消してしまえば、火事にならずに済みます。これと同じで、日頃から病院で定期的に検診を受けたり、適度の運動をするなどして健康に心がけていれば、結果として病院に通う回数も減り、さらには救急件数も減っていくのではないか。

実際、各地区的民生委員さんや、ホームヘルパーさんなど協力なしでは日常生活が成り立たない方が多くなってきているということでした。このような状況の中、町では『介護予防』への取り組みが始まりました。この計画は自立した老後へ向け、体が健康なうちから病気やケガをしないようにハードとソフトの両面から取り組んでいこうというものです。

これらのお話を聞いたり組みは、必然的に『救急予防』にもつながるものですね。弥栄病院の小屋院長のお話にもありますように、自分自身の体はもちろんのこと、ご家族の皆さんとともに健康で安心できることが大切ではないでしょうか。最後に、万が一救急車を呼ばなくてはならなくなつたときは迷わず119通報してください。また、そのようなときに消防署が行っている救急講習会で習ったことが役に立つかもしれません。もしまだ参加されたことがない方はぜひ機会をとらえてください。



“救急予防”聞き慣れない言葉ですが、火災予防とよく言われるように、救急車も通報する前に、みんなの手で出来ることは多いものでしょうか。近年の救急搬送の傾向をみると、お年寄りの救急の增加が特に顕著に表れています。このような状況を、医療と福祉の関係者の方からもご意見を頂き、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

このように増え続ける救急件数ですが、その内訳をみてみると、急病と、交通事故によるものが大きな割合を占め、特に平成12年の急诊の件数は、全体の半数以上になっています。そしてこの急诊で搬送した方を年齢別でみてみると、65歳以上の半数以上になっています。お年寄りの搬送件数が急诊の増加に比例して増えているのです。そしてこの急诊で搬送した方を年齢別でみてみると、65歳以上の半数以上になっています。お年寄りの急诊に要するに、お年寄りの急诊による救急件数だけが増えているといつても言い過ぎではありません。

これから先、さらなる高齢社会を迎えるにあたり、何か打つ手はないものでしようか。

## 自分に何ができるのか

救急車は119通報があればすぐに出動できる体制を整えてお年寄りの急诊を防ぐための手立てを考えて、現場や病院に配置する機材も高度なものを取り入れています。



元気で健康的毎日を

丹後消防が業務を開始して以来、出動件数は増加し続けています。そして近年の救急業務はプレホスピタルケアの充実をめざして救命率の向上に力を注いでおり、丹後消防でも現在8名の救急救命士が各署所に配置する機材も高度なものを取り入れています。救急は救急隊の処置だけではなく、救急現場に着くまでの数分間に、どれだけの手立てがされたかに応急手当が必ず救命に結びつく限りではあります。このコナーでは、プレホスピタルケアに役立つようなお話をシリーズでお届けしていきます。

## 「プレホスピタルケアで高い救命率を」



救急救命士 吉岡 昌俊

# 増え続ける事故・急病も予防ができるはず



## つオトキヤツチ

### 総合防災訓練を丹後で

8月26日、大宮町をメイン会場とし、京都府総合防災訓練が行われました。各町の特色を出した訓練に多くの住民の皆さんのが参加されました。

